

第1学年 生活科学習指導案

場 所	中庭
児 童	1年4組 27名
指導者	名飯 亮子
支援員	三田 万里子

1 単元名 なつってたのしいね

2 単元のねらい

本単元では、身近な自然に目を向け、興味・関心をもって観察したり、体全体で四季の変化を感じ取ったりして、その面白さや不思議さに気付くことができる児童の育成を目指している。また、これまでの経験をもとに諸感覚を使って試行錯誤しながら遊んだり、自分の遊び方と友達の遊び方を比べたりして、遊び方を自分なりに工夫する力を培おうとするものである。さらに、身近な自然を使った遊びをみんなで楽しむ活動を通して、クラス全体の関わりに広がりをもたせ、友達と関わって遊ぶ楽しさに気付くことができる児童の育成を目指していく。

3 単元の指導にあたって

(1) 児童について

児童は入学時から活発で何事にも興味をもって取り組み、与えられた課題にも一生懸命取り組むことができる。4・5月の生活科では、諸感覚を使って春を感じるものを探することで自然と触れ合うことができた。また、友達と握手をしてサインを集めたり、グループで学校探検をしたりすることで、友達を増やし、行動範囲を広げることができた。体を動かして見聞きすることにより、友達や学校に慣れ、活動範囲を広げることができたが、一方で、教師の指示がないとなかなか行動に移せず、自分の世界の中だけで活動することに満足し、その活動を自ら広げたり、継続したりすることはあまり見られない。また、言葉でのコミュニケーションがうまくとれず、友達との関係もまだまだ希薄である。本単元に関連のある経験として、図画工作科の題材「土ってきもちがいいね」の学習で土や砂を使った造形遊びをし、「土や砂は気持ちがいい」「土や砂でいろいろなものができる」ということに気付くことができた。幼稚園や保育園では、頻繁に土や砂で遊んでいたということだが、試行錯誤しながらじっくりと対象と関わり、土と砂の特徴の違いに気付く段階にまでは至っていない。また、身近な草花や生き物との関わりについては、休み時間に虫を見つけて話題に上がることはあるが、その場だけの活動にとどまり、興味を持続させて対象と関わるということはない。

このことから、草花や生き物と十分に関わったり、土や砂を使って多様な遊びをして楽しんだりすることができる環境を構成することで、身近な自然のもつ特徴や面白さ、不思議さに気付いたり、友達と関わって遊ぶ楽しさを感じたりすることができる活動が必要であると考えた。

(2) 単元について

本単元は、学習指導要領の内容(5)「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心し、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。」と(6)「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付く、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。」を受けて、季節を感じながら自然に触れて遊ぶことを楽しんだり、身近な自然を使った遊びを工夫したりする活動を中心に設定したものである。

本単元では、草花や生き物に触れたり、土や砂を体全体で楽しんだりすることで自ら活動を広

げ、今まで気付かなかった自然の面白さや不思議さに気付いたり、新しい遊びを生み出す楽しさを感じたりすることができると考えた。遊びを工夫していく中でもっと楽しく遊ぼうと遊びを工夫したり、約束やルールを作ったりして、友達とよりよい関わりがもてるようになるのもこの単元よさであると考えている。

(3) 指導にあたって

単元構成の「であう」段階では、単元オリエンテーションとして中庭で遊ぶことで自然の変化を感じ取り、夏にやってみたいことを話し合う。そして、その中から出た思いや願いをもとに活動を構成する。また、図画工作科の題材「土って気持ちがいいね」の土や砂を使った造形遊びを想起し、「こんな遊びができそうだ」という話合いをすることで、「土や砂でもっと遊びたい」という思いや願いをもつことができるようにする。

「かかわる」段階では、中庭や学校近くの原っぱで自分のお気に入りの草花を見付けたり、虫がいる場所を考えて虫探しをしたり、体全体を使って土や砂で遊んだりする活動を繰り返し行うことで、諸感覚を使ってじっくりと対象と関わるができるようにする。活動中は、児童の活動や会話、つぶやきを見取り、諸感覚を使って遊んだことを意味付けたり、自然の不思議さや面白さに気付いたことを価値付けたりすることで、児童が気付きを自覚できるようにしていく。土や砂遊びでは、児童の遊びが広がるような遊びのアイテムを予測し、必要に応じて使えるような環境の構成をする。友達と一緒に遊ぶ中で生まれたルールや分担にも目を向け、楽しく遊ぶためにはきまりやルールが必要であることにも気付くことができるようにしていきたい。どんな活動ができたか発表する際は、実物を見ながら説明することで、気付きの交流を図りやすいようにする。そして、土や砂の量感や質感、温度や湿度、水を加えた時の変化などの比べる視点に基づいた交流を促すことで、特徴の違いにも目を向けられるようにしていきたい。

「ふりかえる」段階では、遊びを通して発見したことを話したり、カードなどに書いたりする。単元の初めと終わりのカードを見比べたり活動中の写真を見たりすることで、これまでの活動を想起し、友達と一緒に思いや願いを実現したことや新しい発見をしたことが、自分の成長であることに気付くことができるようにしていきたい。

4 単元の指導計画

(1) 目標

四季の変化に合わせて身近な自然と関わったり、遊びを工夫したりすることで、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで楽しむことができるようにする。

(2) 評価規準

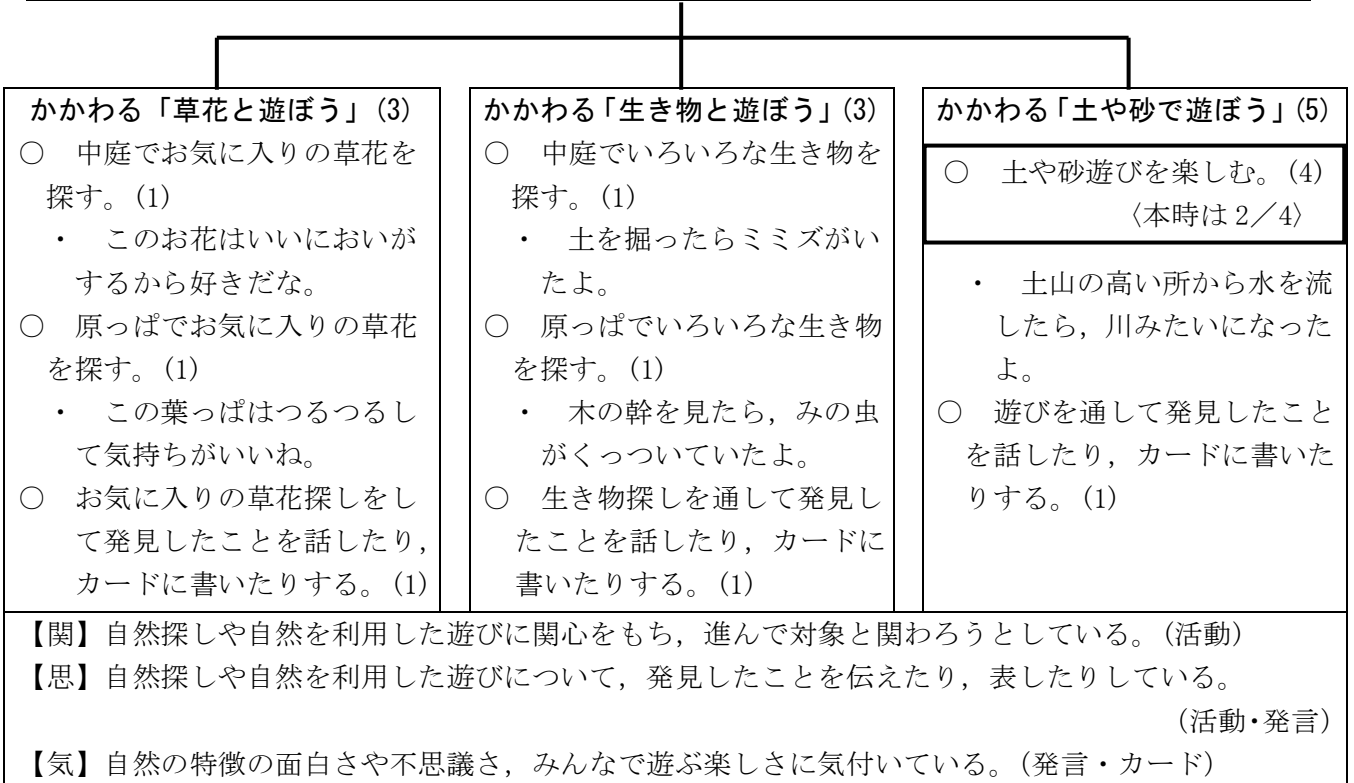
生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気付き
体全体を使って身近な自然と触れ合ったり、思いや願いをもって関わったりしようとしている。	四季の変化や身近な自然を利用した遊びについて、発見したり不思議に思ったりしたことを伝えたり、表したりしている。	四季の変化や身近な自然を利用して遊ぶ面白さ、みんなで遊ぶ楽しさに気付いている。

(3) 指導と評価の計画(全13時間 本時11/13)

単元オリエンテーション であう 中庭で遊ぼう (1)

- 中庭で遊び、身近な自然と触れ合う。
 - ・ 春は花が咲いていなかったけれど、今はいろいろな花が咲いているよ。
 - ・ 石をどけたらダンゴムシがいたよ。木の上にはどんな虫がいるかな。
 - ・ 大きな砂場があるね。山や川をつくって遊びたいな。

【関】身近な自然に関心を持ち、それらを利用して遊びたいという思いや願いをもっている。(活動)



ふりかえる これまでの遊びを振り返ろう(1)

- 身近な自然と関わる活動を通して、「発見したこと」や「できるようになったこと」「友達と遊んでよかったこと」について振り返る。

【気】自然探しや自然を利用した遊びを通して、自分の成長に気付いている。(発言・カード)

5 本時の指導計画

(1) 目標

土や砂遊びを体全体で楽しみ、遊びを工夫することができる。

【活動や体験についての思考・表現】

(2) 評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
土や砂遊びを体全体で楽しみ、遊びを工夫しようとしている。	教師と一緒に遊んだり、友達とつなげたりして、活動できるように促す。

(3) 展開

段階	学習内容及び活動	指導上の留意点(◇評価)	備考
<p>であう</p> <p>5分</p>	<p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ じょうろを使って、砂山に川を作りたい。 ・ 色の違う泥んこコーヒーを作りたい。 ・ 長いトンネルを作りたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>つちやすなでいっぱいあそぼう。</p> </div> <p>2 道具の使い方や安全な遊び方を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少ないアイテムは順番に使う。 ・ 自分で出したものは自分で片付ける。 ・ 遊ぶ場所を一人占めしない。 ・ 友達に土や砂をかけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習意欲を高めるために、前時までの写真を見せ、遊びを工夫していた児童を紹介して称賛する。 ・ どんなことをして遊びたいか尋ねることで、具体的な活動の見通しをもつことができるようにする。 ・ 楽しく遊ぶための約束やルールを確かめる。 ・ 「アイテムコーナー」を紹介し、自由に使ってよいことを伝える。 	<p>前時の写真</p>
<p>かかわる</p> <p>35分</p>	<p>3 自分なりに工夫しながら土や砂で遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 山や川 ・ トンネル ・ 建物 ・ 穴掘り ・ お団子 ・ 飲み物屋さん <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>〈自己と「事象」とのつながり〉</p> <p>児童が試行錯誤しながら活動を広げられるような場を設定する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>体全体を使って思う存分活動したり、試行錯誤しながら遊びを生み出したりすることができる。</p> </div> <p>4 新しい発見を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 砂ではおだんごができなかったけれど、土では上手にできたよ。 ・ 砂山のとっぺんからじょうろで水を流したら、低い方にどんどん流れたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動に戸惑っている児童には、教師と一緒に遊んだり、他の友達とつながりたりして、活動できるように促す。 ・ アイテムコーナーには、シャベル、バケツ、じょうろ、ペットボトルなど、土や砂遊びに必要な最小限の物を置いておく。そして、児童が活動を広げるのに役立つようなものを遊び場近くに置いておき、必要に応じて使えるようにする。 	<p>砂遊び場 土遊び場 ホース 樋 ふるい じょうろ バケツ シャベル プリンカップ ペットボトル プラスチックコップ</p>

	<p>〈自己と「友達」とのつながり〉</p> <p>土や砂との関わり方や、土や砂で遊んで気付いたことについて交流する場を設定する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>友達の発見のよさに気づき、みんなで遊びを作り出す楽しさや、面白さを味わうことができる。</p>	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の驚きや発見を教師が意味付けたり、価値付けたりする支援をして、気づきを自覚できるようにする。 <p>◇ 土や砂遊びを体全体で楽しみ、遊びを工夫しようとしている。【思考・表現】</p>
<p>ふりかえる</p> <p>5分</p>	<p>5 本時の活動を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今度は色の違う土でおだんごを作ってみたいな。 ・ ○○君と一緒に、もっと水を流して、ダムを作りたいな。 	
	<p>〈自己と「未来」とのつながり〉</p> <p>遊びに工夫が見られたり、友達との関わりに広がりが見られたりしたことを価値付けて全体に広げる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>友達の発表を聞いて、「自分もやってみたい」「次はこうしたい」という思いをもつことができる。</p>	

(4) 場の設定

